

■男女共同参画ってなんだろう？

ある大学病院に有能な外科医がいました。その外科医に手術をしてもらおうと全国から患者が集まってくるほどの知名度です。ある日、その外科医のもとに交通事故にあったという親子が運ばれてきました。親子を見て外科医はびっくりしました。なぜならば、交通事故にあったのは自分の子供とその子の父親だったからです。

さて、この外科医と交通事故にあった子供、その子の父親との関係は？

どうですか？子どもの本当の父親が外科医で、一緒に運ばれてきた父親は元妻の再婚相手？など、いろいろ考えてしまっていないませんか？外科医＝男性と考えなくてもよいのです。外科医が子どもの母親だと考えれば容易に家族関係がわかります。

私たちは、日頃、無意識のうちに「男はこうだ」「女はこうだ」という性別で分けられた固定観念に捉われていることがあります。



医師は男性、看護師は女性？

パイロットは男性、客室乗務員は女性？

区長やPTA会長は男性、役員は女性？

上げ膳据え膳のお父さん、食事を作ったり片付けたりするのはお母さん？

このような思い込みを固定的な性別役割分担の意識といいます。

医師やパイロットが男性であることも、看護師や客室乗務員が女性であることも、女性が専業主婦であることもいけないことではありません。しかし、あくまで決め付ける必要はないのです。このような決め付けられた考え方によって、自分らしく生きられない人がいるとしたら、とても残念なことです。区長の女性や主夫の男性が、余計なプレッシャーや偏見を感じずにいられる社会になればいいと思いませんか。

このように女性も男性も対等なパートナーとして自分らしく生きられる社会を男女共同参画社会は目指しているのです。



豆 知 識



男女共同参画



男女共同参画のシンボルマーク。男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いをこめています。

女性に対する暴力婚前のためのシンボルマーク。女性の表情、握りしめたこぶし、クロスさせた腕により、暴力を断固として拒絶する強い意志を表しています。

～ジェンダー～

生まれつきの生物学上の男性・女性の他に、社会通念や慣習の中には、社会や文化によって内外歴史の中で作り上げられてきた「男らしさ」、「女らしさ」があり、このような男性、女性の区別のことを社会的性別（ジェンダー）といいます。

ジェンダーは、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、中立的な概念で、国際的にも使われています。